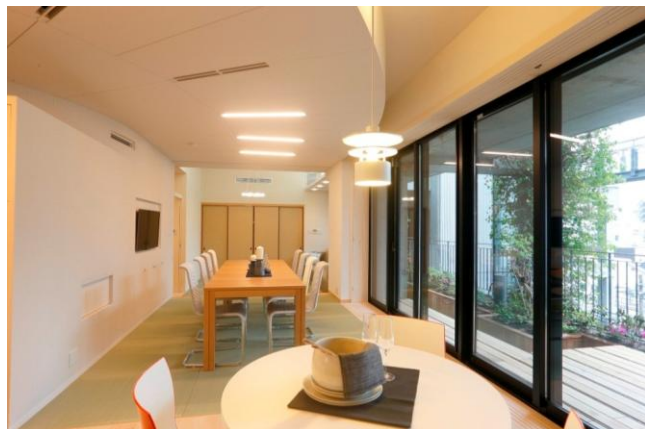


建物名称	大阪ガス実験集合住宅NEXT21 403住戸「しなやかな家」	
所在地	大阪市天王寺区	
施工年	2013年	
構造・構法・規模	1～2階：鉄骨鉄筋コンクリート造 3～6階：プレキャストコンクリート+鉄筋コンクリート複合構法 地上6階・地下1階の4階住戸：117.81m ²	
事業者名	大阪ガス株式会社	
設計者・施工者 (改修業者)	インフィル設計：近角よう子/近角建築設計事務所 住棟設計：集工舎建築都市デザイン研究所 施工：大林組	
増改築・リフォームの種別	大規模な模様替え	<p>NEXT21 外観（スケルトン・インフィル方式の採用）</p>
増改築・リフォームのテーマ・特徴	スケルトン・インフィル方式を活かし、壁面・内装を改修し新しい住戸を建設。コンセプトとしては、団塊世代夫婦が住み、自宅で料理教室を開催するなど、人とのつながりを創出する。また、室内は露台を通じて、緑地のある外部空間とつながる。暮らし方の変化や住み継ぎに際しても快適性を損なわず、戸境壁の変更が対応可能な住まいとなっている。	

採用された環境共生要素技術	省エネ	高効率な燃料電池（エネファーム typeS）の導入、電気融通実験による更なる省エネ熱損失の低減（Q 値：1.9W/m ² K（等級 4 超）以下）
	省資源	変化対応型工構法（スケルトン・インフィル方式）の採用 生ごみのバイオガス利用、生活排水の中水利用（植栽の灌水） 住み継ぎにも対応可能な戸境壁の設定
	親和性	豊かな内外の中間領域の創出（外部空間の緑と室内の緑をつなぐ）
	健康快適	通風や換気性能を確保（気候の良い時期は風を通し、快適に過ごす）
先導事業・認定等の取得	平成 24 年度「住宅・建築物省 C02 先導事業」採択	

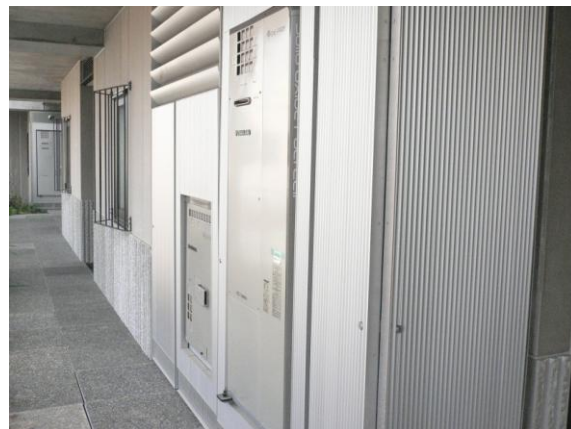


キッチンと連続した露台が豊かな外部空間（緑）と住戸内を繋ぐ



（左下）気候の良い時期は風を通し、外部の快適性を取り込む

（右下）高効率な燃料電池（エネファーム typeS）、住棟内で電力融通



増改築・リフォームによる効果	高効率な燃料電池（エネファーム typeS）導入による電力・給湯の大幅なエネルギー使用量削減に加え、棟内での電力融通実験により、更なる省エネ、購入電力削減による節電・ピークカットに貢献。中間領域（キッチン・露台）により、人との交流、通風による快適性の向上や外部緑地との連続性により自然の恩恵を享受。
----------------	---